

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立長南中学校

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのようなとりくみを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのようなとりくみを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成28年4月19日（火）

3. 調査の対象

中学校第3学年、全生徒

実施生徒数（ 75 人）

4. 調査の内容

- (1) 学力に関する調査
 - ア 教科は、国語及び数学。
 - イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。
 - ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。
- (2) 学習状況に関する調査
 - 調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「生徒アンケート調査」という。）を実施する。
- (3) 学校のとりくみに関する調査
 - 調査対象の生徒が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国に比べ下位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 64.3／泉佐野市 71.2／大阪府 73.5／全国 75.6）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国に比べ中位層・下位層が多い傾向が表れている。

平均正答率（本校 52.4／泉佐野市 60.9／大阪府 63.3／全国 66.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○目的に応じて資料を効果的に活用して話すことに課題がある。 1 二 絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する。(57.3/78.1) ○話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することに課題がある。 7 一 相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する。(46.7/70.6) ○互いの発言を検討して自分の考えを広げること に課題がある。 7 二 話し合いを踏まえた発言として適切なもの を選択する。(46.7/62.0) 【書くこと】 ○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書 くことに課題がある。 2 一 パンフレットの見出しを他の見出しの書き 方を参考にして書く。(57.3/78.1)	○伝えたい事柄について根拠を明確にして書くこ とに課題がある。 4 二 質問に対する答えが明確になるように適切 な言葉を書く。(58.7/78.7) 【読む】 ○文脈の中における語句の意味を理解することに 課題がある。 3 一 「ライスカレーの名に値する」の意味として 適切なものを選択する。(69.3/84.7) 【言語についての知識・理解・技能】 ○文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があ る。 9 一 1 ケンキュウ (58.7/83.5) 9 一 2 ドクソウ (9.3/26.1) ○文の成分の照応について理解することに課題が ある。 9 五 文章を書き直した意図として適切なものを 選択する。(32.0/50.8)

国語 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【国語への関心・意欲・態度、書くこと・読むこと】 ○文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確 にして自分の考えを具体的に書くことに課題が ある。 1 三 ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を 書く。(42.7/68.0) ○課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考 えることに課題がある。 2 三 宇宙エレベーターについて疑問に思ったこ とを、それを調べるために必要な本の探し 方を書く。(33.3/49.2)	○本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を 明確にして自分の考えを書くことに課題がある。 3 三 図鑑の説明を読むことで、よく分かるようにな った物語の部分と、その部分についてどの ようなことが分かったのかを書く。(38.7/57.7)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きだ。	56.0	59.8		3.8
国語の勉強は大切だと思う。	77.4	89.1	○	11.7
授業の内容はよく分かる。	77.4	74.1		3.3
読書が好きだ。	60.0	69.9	◇	9.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。	76.0	84.6	◇	8.6
今回の国語の問題で、解答を文章で書く問題について、最後まで書こうと努力した。	58.7	71.7	○	13.0
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	76.0	62.8	○	13.2

○「国語の授業はよく分かる」は全国平均を上回っていて、本校生徒の学力実態に合った授業が一定できていると考える。

○「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」は全国平均を大きく下回っており、学習に対する動機づけがもっと必要だと感じる。

○国語Aの正答数分布を見ると、33問中、正答数が一桁の生徒が13.3%と非常に多い。

低学力の生徒を中心に、すべての生徒への支援として、

- ①目標を提示・確認してから授業をはじめ、ふりかえりをして終わる。
- ②小学校で習った漢字の小テストを行う。
- ③生徒の実態に合った文章教材を選ぶ。
- ④ワークシートを作成する。
- ⑤ペア学習や班活動を取り入れる。

等を毎時間つづけてきたが、成果が点数に反映されるまでには至っていない。

○国語Bで全国平均との差が特に大きかった設問は、評価の観点が複数にまたがる総合的な問題で、また、すべて記述式である。無答率も20%を超えている。これは、学習状況調査で「今回の国語の問題で、解答を文章で書く問題について、最後まで書こうと努力した。」と答えた生徒が少なく、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。」と答えた生徒が多いこととも大いに関連していると考えられる。日頃から難しいと感じるとすぐにあきらめる傾向があり、学力面の課題でもあるが、チャレンジする気持ちを粘り強く引きだしていきたい。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全国と比べ上位層の29問から33問までの正答数の生徒が少なく、下位層の特に2問から4問と、また中位層の26問、28問の正答が多い。それ以外は全体的な分布状況は全国とほぼ同じである。

平均正答率（本校 52.4／泉佐野市 57.4／大阪府 61.7／全国 62.2）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層及び中位層の7問、8問、10問の正答数が少なく、下位層に偏っている。

平均正答率（本校 33.1／泉佐野市 38.2／大阪府 43.1／全国 44.1）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

- ・数学A、Bともに全国との差が大きく、ほとんどの項目において5%以上の差がある。そこで表にまとめ、特に差がある項目において考える。

数学A	特 徴 が み ら れ た 設 問
以下の項目について、特に課題が大きい。 【数と式】 ○不等式の意味を読み取ることができる 2（3）ある数 a について、不等式 $a > 5$ と表せる事柄を選ぶ (61.3/78.2) ○簡単な一元一次方程式を解くことができる 3（1）一元一次方程式 $x + 12 = -2x$ を解く (56.0/71.3) ○2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる 3（4）方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる (74.7/89.7)	【図形】 ○四角形をその面と垂直な方向に平行に動かすと、四角柱が構成されることを理解している 5（2）四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く (54.7/74.0) ○ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる 7（2）ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す (52.0/74.7) 【関数】 ○具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる 11 一次関数の事象を式で表す (30.7/53.0)

数学B	特 徴 が み ら れ た 設 問
以下の項目について、特に課題が大きい。 【数と式】 ○適切な事柄を判断し，その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる 1 (3) 1試合の時間を10分とすることができるかについて正しい記述を選び，その理由を式を基に説明する (36.0/51.4) 【関数】 ○条件を基に，表から数量の変化や対応の特徴を捉え，x の値に対応する y の値を求めることができる 2 (1) 一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める (40.0/59.1) 【証明】 ○付加された条件の下で，新たな事柄を見だし，説明することができる 4 (2) $DA:DC=1:2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する (16.0/37.3)	【資料の活用】 ○資料の傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる 5 (1) 24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を，グラフの特徴を基に説明する (32.0/47.6) ○与えられた情報から必要な情報を選択し，数学的に表現することができる 5 (2) 25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く (13.3/31.1) 【規則性】 ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる 6 (1) 最初に決めた数が5のとき，手順通りに求めた数を書く (56.0/76.4)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	66.6	56.1	○	10.5
数学の勉強は大切だと思いますか	82.7	80.5		2.2
数学の授業の内容はよく分かりますか	74.6	69.4	◇	5.2
数学ができるようになりたいと思いますか	81.4	91.3	◇	9.9
数学の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか	73.3	72.1		1.2
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	64.0	41.9	○	22.1
数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	72.0	71.5		0.5
数学の授業で問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考えますか	66.6	69.0		2.4

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	66.7	69.8		3.1
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	74.7	81.1	◇	6.4
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	82.7	92.7	○	10.0
調査問題の解答時間は十分でしたか（数学A）	88.0	89.2		1.2
調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	77.3	62.9	○	14.4

○「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」等の質問に対する数値が高く、数学に対して前向きにとりくむ意欲をもっていることがうかがえる。

○「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」、「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」は全国平均を下回っている。このことから、指定されたことしかできていないという状況が考えられる。そのため、問題形式がかわれば、同じ問題でも解けない問題も増え、やる気につながらないようになっている傾向がうかがえる。

○自分で考えることや、自分の考えをまとめること（文章化すること）が苦手であり、記述問題であれば、無回答率も高くなる。

○最後まであきらめずとりくもうとする姿勢がうかがえるが、学力として定着していないと思われる。

○日頃から数学を学ぶ必要性を感じられるような工夫が必要である。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1, 2を肯定的評価, 3, 4は否定的評価としてそれぞれ同じ傾向と捉え、本校の子どもたちの意識調査を行った。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較した。下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問 内容 種別	本校の状況	本校<本校回答率／全国回答率>
【家庭生活の様子】	・「朝食を毎日食べていますか」は昨年度全国平均を大きく下回ったが、今年度は全国平均を0.1%上回っている。 ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に「している」と答えた子どもが全国平均より14.5%上回っている。しかし、「普段、何時ごろに寝ますか」という質問では、「午後9時より前」が全国平均を4.4%上回っている一方で「午前0時以降」も9.2%全国平均を上回っており、寝る時間が早い子どもと遅い子どもで二極化している傾向がうかがえる。 ・「家の人と学校での出来事について話をしますか」「家の手伝いをしていますか」の項目は、「している」と答えた子どもは3.8%, 6.1%とそれぞれ全国の値を上回っているが、「どちらかといえばしている」という肯定的評価で比較してみると、全国平均を下回る。家庭によって、かかわりの差が顕著になっていることがうかがえる。 ・「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」で「4時間以上」が全国平均を6.1%上回っている。さらに、「30分より少ない」は8.8%下回っており、携帯・スマホを扱う時間が長い傾向にあることがわかる。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」という項目は全国平均より15.5%下回っており、携帯・スマホを持っていない子どもが学年の5.3%であり、所持率の高さが上記の時間の長さに関連していることが考えられる。	○自分には、よいところがあると思いますか <u><52.0/69.3></u> ○難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか <76.0/69.6> ○テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む） <80.0/87.4>
【家庭学習の様子】	・「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしています」は、全国平均を大きく下回っている。 ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「3時間以上」が全国平均より10.6%上回っている。しかし、「全くしない」も全国平均より10.5%上回っており、家庭学習の習慣が身についているかは二極化している傾向がある。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日」についても同じ傾向が見られる。 ・昨年度との比較では、「家で、学校の宿題をしている」「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の復習をしている」が昨年度よりやや下回っている。 ・「家で、学校の授業の予習をしている」は昨年度より6.2%上昇している。	○家で、学校の宿題をしていますか <u><74.6/90.1></u> ○家で、学校の授業の復習をしていますか <u><36.0/51.0></u>

【学校生活の様子】	・「将来の夢や目標を持っていますか」に「当てはまる」と答えた子どもが5.6%全国平均を上回っており、1年生の時から継続してキャリア教育にとりこんでいた成果が表れていると考えられる。しかし、「当てはまらない」と答えた子どもが12.0%おり、大阪府の平均は上回っているものの全国平均と比べると1.2%数値が大きい。すべての子どもに将来の夢や目標を持たせ、未来への展望を持たせるキャリア教育の一層の推進が課題である。 ・『総合的な学習の時間』の勉強は好きですか」に「当てはまる」と答えた子どもが12.7%全国平均を上回っており、人権学習・総合学習への意欲の高さがうかがえる。 ・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか」に「当てはまる」と答えた子どもが13.1%全国平均を上回っている。 ・「授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いですか」という問いに「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねに行く」と答えた子どもが全国と比べて35.1%上回っており、教師への信頼感の高さがうかがえる。	○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか $<65.3/50.2>$ ○あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか $<66.7/78.4>$ ○1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか $<88.0/63.1>$ ○1, 2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか $<72.0/84.1>$ ○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか $<76.0/62.8>$
-----------	--	--

本校のとりくみ

◎これまでのとりくみ

○基礎学力の定着に向けて、習熟度別分割授業や補充的な学習を行っています。

今年は英語と数学で少人数分割授業を行っています。分割では習熟度別でクラスを分けており、自分の進度に合わせて学習にとりくむことができます。また、各学年で長期休業中に補充授業を行っており、前向きに学習にとりくむ姿が見られます。1年生で週1回火曜日に行っている7時間目は全教職員で行っており、基礎学力の定着と全職員が1年生とのつながりをつくることを目的にしています。他にもテスト前に教科担当の教員に質問を聞きに行ける質問日や、各学年で放課後学習会なども実施しており、今年度は生徒会が主催した学習会も開催しています。

- ・数学・英語での習熟度別指導や学級を2分割しての少人数指導の実施
- ・1年生への数学・英語の週1回の7時間授業(放課後学習)の実施
- ・放課後の補充学習会の実施
- ・長期休業中の補充学習会の実施
- ・定期テスト前の放課後を利用した教科別質問日の実施
- ・生徒会主催の学習会の実施

これらの補充的な学習の機会の他に、全学年子どもの実態に応じた手づくりの教材で朝の学習と毎日の宿題を行い、基礎学力の定着と家庭学習習慣の確立をめざしています。

○支援教育の視点を活かしたユニバーサルな授業をめざしています。

- ・蛍光チョークによる授業の目標の明示
- ・「授業のふりかえり」を実施
- ・本時の流れを黒板に明示
- ・視覚支援を取り入れた「目で見てわかる」授業
- ・黒板周りに掲示物を貼らない等、集中しやすい環境のための教室整備

すべての子どもたちが授業にとりくみやすくなるための手立てとして、これらを学校全体で確認し、全クラスでとりこんでいます。

○授業改革のための教職員研修を行っています。

- ・すべての学年で研究授業を年3回行い、授業改善に努めています。

全職員で1つの学年を見る形で研究授業を行っています。今年度は「子どもをひきつける授業づくり」「指導と評価の一体化」をテーマに行っており、研究授業の中で多くの目で子どもの実態を見るとともに授業の有効な方策について研究討議を行い、教職員で共通理解をもつようにしています。

- ・こ小中（こども園・小学校・中学校）合同研を通じた校種間の連携・交流・授業規律の統一

長南校区では、はるかこども園・長南小学校・長南中学校で合同研修を年2回行っています。研修で異校種の職員が交流することで、子どもたちの15年間の育ちを見据えて各学校園で大事にするポイントを確認しています。今年度の第2回合同研のテーマは「15年間を見すえた こ小中の“接続”～ここにこだわらしましょう～」でした。活発な意見交流と討論が行われ、長南校区でめざす子ども像についての認識が深まりました。

- ・目標に準拠した評価を通した授業改革

各教科で各学期ごとに評価計画を作成した上で計画的に授業を行っています。子どもにとっても授業内で評価基準を明確化することによって授業にとりくむ意欲に影響する姿が見られます。目標に準拠した評価を通して授業改革を行うことを意識しながらとりくんでいます。

○班活動を集団づくりの中心に据えています。

本校は、集団づくりの中心として班活動に重点を置いています。班活動を充実させることで、子どもたちのコミュニケーション力の向上や、ものごとに自主的にとりくむ力の向上、言語活動の充実をめざしています。集会のある日以外、毎日行っている朝の学習は班単位で行っており、わからないところを子どもたちどうして教えあう姿が見られます。また、授業でも班活動を取りいれており、子どもどうしの交流や言語活動の充実のための機会をつくっています。その他授業展開に応じて、ペア学習、学習班での活動などを取り入れ、充実した授業ができるよう努めています。

○授業規律の確立のため、生徒指導委員会と連携をとっています。

- ・全教職員での授業開始3分前入室指導

授業開始3分前に全職員で入室指導を行っています。授業のスタートがスムーズに行えるように全教職員で協力しています。

- ・授業開始1分前のメロディチャイム

授業開始1分前にメロディチャイムが流れています。音楽（校歌）が聞こえると授業の準備を急ぐ子どもたちの姿も見られ、学年によってはキャンペーンと連動してチャイムで授業スタートにとりくんでいる学年もあります。

- ・全校の「月間目標」の設定

具体的な「月間目標」を設定し、全クラスに掲示しています。「校歌で着席 チャイムで授業」「グーピタピンで聴こうよ話」「正そう姿勢 あげよう顔」など、具体的な言葉で子どもが意識しやすい目標を生徒指導委員会で話し合っています。生徒指導委員会には学力向上担当も入り相談しています。

○家庭学習の充実に努めています。

- ・「家庭学習の手引き」の配布

教科ごとの学習方法や家庭学習のしかたについての情報提供のため、全家庭に「家庭学習の手引き」を年度当初に配布しています。家庭学習の手引きは基本的に4月の家庭訪問時に各家庭に届けられ、家庭学習についての理解を深めてもらい、家庭と学校とが協力して子どもの学力向上をすすめられるようにしています。

- ・毎日の宿題

家庭学習習慣の定着のため、どの学年でも宿題を出しています。宿題は班長が集め提出し、担任がチェックして返すなど各学年で行っています。

◎これからのとりくみ

- 基礎学力の定着に向けて、習熟度別分割授業や補充的な学習を行っています。
- 支援教育の視点を活かしたユニバーサルな授業をめざしています。
- 授業改革のための教職員研修を行っています。
- 班活動を集団づくりの中心に据えています。
- 授業規律の確立のため、生徒指導委員会と連携をとっています。
- 家庭学習の充実に努めます。

以上の長南中学校が今までとりくんできた学力向上のとりくみを継続し、一層推進していきます。

○その他、これから工夫改善しながらとりくんでいくこと

- ・ 毎日の宿題、朝の学習、放課後学習の継続
- ・ 支援教育の視点を活かした授業づくりの推進
- ・ 授業における言語活動の充実
- ・ 指導と評価の一体化をめざした授業づくりの充実
- ・ 学習規律の再点検
- ・ 教職員研修の充実（自習研修の工夫）
- ・ 地域との交流の充実
- ・ 他校種との連携の充実（特に高等学校との連携・追指導の充実）

○基礎学力の充実のために反復教材の工夫と家庭学習への活用をすすめます。

○子どもの学力実態に即し、すべての子どもにわかりやすい授業を実現するため、支援教育の観点を活かした授業づくりと、習熟度別少人数指導の工夫と充実を図ります。

○全ての教科で、子どもたちの考える力・判断する力・表現する力をはぐくむことをめざした言語活動の充実をより一層すすめます。

○目標に準拠した評価をさらに充実させるため、授業と評価の一体化を図り、授業改善に努めます。

○支援教育委員会と連携し、個々の子どもの学習状況や課題を把握し、個別支援や通級指導教室の活用などきめ細かいとりくみをすすめます。

○家庭学習の充実を図るため、「家庭学習の手引き」の配布を継続するとともに、「家庭学習の手引き」の内容の充実を図ります。

○大人の協力で子どもたちを見守りサポートするために、家庭・学校・地域の連携を一層すすめます。